

## “BOWIE : FACES” 展 -名古屋開催-

### | “BOWIE : FACES” (ボウイ・フェイゼズ) 展とは

本展は、テリー・オニール、ブライアン・ダフィー、鋤田正義など、7名の有名写真家による、デヴィッド・ボウイの珠玉のポートレート、写真家とのコラボレート作品を紹介する写真展です。1周年にあたる昨年、“BOWIE : FACES” 展と銘打ち、代官山蔦屋書店、アクシスギャラリー・シンポジア（六本木 AXIS ビル地下1階）、ブリッツ・ギャラリー（東京・目黒）の3会場で展示会を開催し、大きな反響を呼びました。

なお、東京天王洲の寺田倉庫 G1 ビルで開催された英国ヴィクトリア&アルバート美術館企画による“DAVID BOWIE is”の巡回展においても、“BOWIE : FACES”展の参加写真家全員が“DAVID BOWIE is”展にも協力しました。

ぜひ本展を通して、ボウイのヴィジュアル・アートへ与えた多大な影響の軌跡をご高覧いただくとともに、貴媒体においてのご紹介をよろしくお願いいたします。

### ○主な参加写真家のプロフィール

#### テリー・オニール(Terry O' Neill) (1938-)

オニールは、ロンドン出身。初期のザ・ビートルズやザ・ローリング・ストーンズ、そしてハリウッドの映画スターたちの秀逸なポートレートで知られる世界的な写真家です。1973年、テリー・オニールはジギー・スターダストの最終公演に立ち会うメンバーとしてボウイに招待されました。テレビの特別番組として収録されたザ・マーキー(ロンドンのライブハウス)でのジギー・スターダスト最終公演は、オニールがすべての瞬間を撮影しています。この歴史的な音楽パフォーマンス以来、約30年以上にわたり二人は共に仕事を行うこととなります。アルバム “ダイヤモンドの犬 *Diamond Dogs*” (1974年)のプロモーションに使用されたグレートデーン犬とボウイ、辛子色のス

ーツを着たポートレート(1974年)、小説家ウィリアム・S・バロウズとのツーショット(1974年)、映画“地球に落ちてきた男 *The Man Who Fell to Earth*”(1976年)撮影時のソフトハットとサングラス姿のオフショットなど。これらの非常に良く知られたボウイのイメージは、テリー・オニールが撮影しています。オニールは常に天才ボウイのキャリア上の重要な瞬間にカメラを向けていました。

### ブライアン・ダフィー(Brian Duffy)(1933-2010)

ダフィーは、ロンドン出身のファッション・ポートレート写真家。70年代から80年にかけてデヴィッド・ボウイと5回の撮影セッションを行っています。“ジギー・スターダスト *Ziggy Stardust*”(1972年)、“アラジン・セイン *Aladdin Sane*”(1973年)、“シン・ホワイト・デューク *The Thin White Duke*”(1975年)、“ロジャー *Lodger*”(1979年)、“スケアリー・モンスターズ *Scary Monsters*”(1980年)です。特にアラジン・セインのアルバムジャケットに使用された写真は有名で、“ポップ・カルチャーにおけるモナリザ”とも呼ばれています。写真家ダフィーの名前を知らない人でもこの写真は見たことがあるでしょう。2013年夏、英国ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館で開催された“DAVID BOWIE is”展では、メイン・ヴィジュアルにアラジン・セインのセッションでのボウイが目を開いた未使用カットが使用され話題になっています。

### 鋤田正義(Masayoshi Sukita)(1938-)

1938年福岡県生まれ。1970年からフリーとして活躍しています。特にデヴィッド・ボウイと深い親交があり、彼を約40年以上にわたり撮り続けました。70年代のはじめ、鋤田は気鋭の若者文化や音楽に惹かれニューヨークやロンドンに撮影に出かけます。1972年の夏にT・レックスのマーク・ボランやボウイを撮影。1977年にはボウイのアルバム“ヒーローズ”のカバーを撮影、同作を鋤田は自身のベスト作品だと考えています。それ以降も、ドキュメンタリーからファッション、広告、映画、音楽まで幅広く活動。“氣 デヴィッド・ボウイ”、“David Bowie × Masayoshi Sukita Speed of Life”、“T. Rex 1972”、“YELLOW MAGIC ORCHESTRA × SUKITA”、“SOUL 忌野清志郎”他、多数の写真集を発表しています。鋤田のボウイのイメージは、ヴィクトリア&アルバート美術館の訪問者数記録を塗り替えた“DAVID BOWIE is”展でも特集されています。同展は17年1月に東京にも巡回しています。2018年5月には、鋤田の軌跡をたどる初のドキュメンタリー映画“SUKITA”(刻まれたアーティストたちの一瞬)が公開。

### ジュスタン・デ・ヴィルヌーヴ(Justin de Villeneuve) (1939-)

デ・ヴィルヌーヴは、ロンドンのイーストエンド出身。非常に多彩なキャリアを持っており、ボクサー、ヘアド レッサー、インテリア・デコレーター、詩人、写真家、マネージャーなどとして活躍。60年代に日本でも大活躍したイギリス人モデルのツイッギーは、彼がマネージャーとして世に送り出したことで知られています。1973年、彼はボウイ初のカバーアルバム”ピンナップス *Pin Ups*”のジャケット写真をパリで撮影。ボウイとツイッギーが 写った同作は、元々は雑誌 *Vogue* のために撮影されたとのことです。

### ギスバート・ハイネコート(Gijsbert Hanekroot) (1945-)

ハイネコートはオランダ出身の写真家。1969~1983年にかけて”00R”, ”Nieuwe Revu”, ”Margriet”, ”Viva”などの雑誌や新聞で活躍しました。写真は独学で学びんでおり、写真家のアシスタント時代に60年代後半に活動していたアメリカのバンド”The Outsiders”のライブを撮影したことがきっかけでロック・フォトグラファーの道を進み始めました。1970年~1975年にかけては、オランダの音楽専門誌”00R”の最初の専属写真家としてミュージック・シーンを精力的に撮影。オランダを代表する写真家アントン・コービンが彼のアシスタントだったこともあるそうです。

### マーカス・クリンコ (Markus Klinko) (1961-)

クリンコは、スイス出身のファッション・ポートレート写真家。キャリア初期はクラシックハープ奏者として 国際的に活躍。1994年の手の負傷を契機にファッション・フォトグラファーへ転向しています。雑誌編集者の イザベラ・ブロウや、”Interview Magazine”誌のイングリッド・シシーらに評価され、世界的に注目されます。以降、”Vogue”、”Vanity Fair”などで活躍しています。デヴィッド・ボウイと妻イマンもこの有望な写真家にチャンスを与えました。イマンの写真集”I am Iman”(2001年)とともに、ボウイの25枚目のアルバム”ヒーザン *Heathen*”(2002年)のジャケット撮影を依頼しています。

## ジェラルド・ファーンリー (Gerald Fearnley) (1932-)

ファーンリー は英国サリー州出身の写真家。実兄は1966年から67年にかけてのボウイのバックバンド“The Buzz”のバス奏者 デック・ファーンリーで、当時は家族ぐるみでボウイと親しくしていました。彼はボウイのデビューアルバムのカバー写真をロンドンマーブルアーチ近くの教会地下にある自身のスタジオで行っています。

撮影のためにボウイはグレーのミリタリー風ジャケットをデザイン、ボウイはそれを誇りにしていました。1967年6月1日、ボウイのデビューアルバムは、モノラルとステレオでリリース。デビューアルバムは当時批判的に受け入れられ、長年忘れられていましたが、1988年と2010年に再リリース されます。このチャーミングなカバーイメージと同年にファーンリーのスタジオで撮影された作品群は、2016年になって初めてフィン・アート作品として公開されました。

### | 写真展開催について

●開催時期 2018年9月8日 (土) -16日 (日) 9:00-19:00 (日曜/12:00-19:00)

9月7日 (金) 19:00-20:30 展示会場にて開催記念パーティを開催

会費制で予約申込み3,000円 (税込)、予約なし当日参加3,500円 (税込)

参加を希望される方は、展示会主催実行委員の岡田新吾 (有限会社エピソード)

までご連絡ください。ご予約の締切りは8月17日とさせていただきます。

なお、会費のお支払いは当日会場の受付で結構です。

mail:okada@episword.co.jp TEL. 052-251-0305 FAX. 052-251-0310

●開催場所 納屋橋 高山額縁店 2F 〒450-0003 愛知県名古屋市名東区名駅南一丁目1-17  
TEL. 052-541-7813 <http://nayabashi-gakubuchi.jp>

### ●展示内容

各写真家の代表作、本展用限定作などのオリジナル・プリントを展示(合計約 25~35 点を予定) プリント付限定本 “BOWIEBYO’ NEILL(” テリー・オニール)、写真集、展覧会カタログなど

協 賛：株式会社マグネティックフィールド／諸戸の家株式会社

展示協力：納屋橋 高山額縁店

協 力：サロン・ド・タマラド／ル マルタン ペシユール

■主催 “BOWIE:FACES” 名古屋実行委員 岡田新吾 船橋浩三 近藤マリコ

お問合せ先 岡田新吾 有限会社エピスワード

〒460-0008 名古屋市中区栄5-16-14 新東陽ビル6F

mail:okada@episword.co.jp TEL.052-251-0305 FAX.052-251-0310